

福祉サービス第三者評価結果

①第三者評価機関名

株式会社 地域計画連合

②事業者情報

| | | | |
|--------|------------------------------|-----------|--------------|
| 名称： | アスク東川口保育園 | 種別： | 保育所 |
| 代表者氏名： | 加藤 美磨里 | 定員(利用人数)： | 90 (91) 名 |
| 所在地： | 〒 333-0811 埼玉県川口市戸塚4-21-1 | TEL | 048-298-0083 |

③評価実施期間

平成29年8月1日(契約日)～平成30年3月31日(評価結果確定日)

④総評

◇特に評価の高い点

○系列園の施設見学を行い、保育室環境の工夫と改善につなげている
 0歳児室は入り口から入ってすぐに前室を設け、保護者がタンスへ衣類の補充や点検がやりやすくなっている。保育室に入ると食事と活動のスペースに分かれており、子ども一人ひとりの発達に応じた生活が安心してゆったりと過ごせるように配慮されている。1歳児もタンスの配列の工夫で保護者が衣類の補充をしやすいようになり、食事と活動の場も棚などを利用し分けることにより生活がしやすい環境になっている。2歳児室は玩具の収納に配慮し、子どもが遊びたいときに好きな玩具を収納箱から取り出して遊べるようになっている。また、担任が段ボールに布を張り手作りのパーテーションを作成し、必要に応じてパーテーションを利用しながらコーナー遊びを充実させている。3・4・5歳児の保育室は自由製作等を継続してできるように一時保管場所を棚の上に確保し、感じたこと、思ったこと、想像したことなどを楽しく表現できるように配慮されている。種子から緑の葉が成長したアボガド等、緑の植物が子どもたちの視覚に自然に入るよう配置されていた。どのクラスも限られたスペースでの工夫配慮がみられ、今後も更に月齢にあった環境整備に期待ができる。

○周辺資源を活用して子どもたちの園生活を豊かに展開し、専門性などを活かした子育て支援に取り組んでいる
 園の周辺環境や資源を活かして、子どもたちの保育園生活が豊かに展開されるよう工夫がなされている。近隣の高齢者施設へ訪問して交流をしたり、消防に訪問しては起震車体験をするなど、様々な経験を通して子どもたちが育まれている。また、畑でのじゃがいもや大根の収穫などの土に直接ふれることで、食に関する関心や興味などを高めている。大根の収穫体験には系列園の年長も参加し交流につなげている。地域の子育て支援拠点として、園に併設された支援センターの機能を活かして親子クッキングや製作、読み聞かせなどの豊富なプログラムを提供し、0歳児も受け入れるなど地域の子育て支援に大きく貢献している。更に毎週の園庭開放やふれあい体験の受け入れなど、園の施設や専門性を活かした取り組みが行われている。

◇特にコメントを要する点

○保護者へ保育園の保育活動の内容や考え方を更に丁寧に周知・伝達されたい
 安全のために園庭の老朽化した固定遊具の撤去した後、広くなった空間の有効活用にプランタでの野菜作りや、子ども同士の自然発生したごっこ遊び、運動遊びなどのびのびと遊べるように配慮されている。今年度は大雪も体験し、雪をみんなで積み上げて鎌倉を作ったり思い切り雪遊びを楽しめた。近隣の自然に恵まれた公園へ出かけたり、野菜の収穫など全園児が年齢に応じたのびのびと戸外遊びを経験している。週案を保育室に、その日の保育内容を玄関にとクラス毎に活動内容を掲示しているが保護者アンケートより、園の考え方や活動内容が十分に周知されていないことが伺える。固定遊具を撤去した後の園庭の活用の仕方、戸外遊びを数多く取り入れているが、保護者に周知されていないことが利用者調査から窺えるため、今後、掲示をするほかにも懇談会などで口頭により保育活動の内容や考え方を更に周知・伝達されることを期待したい。

○現在取り組んでいる保育環境の設定などを具体的に中長期計画に位置付け、職員間で共有し次の計画につなげ、やる気などの更なる向上に活かされたい
 園の中期計画やおもちゃに関する計画を策定して保育の充実に向けた取り組みを進めている。また、保育環境の見直しに着目して再検討を行い、クラス内の配置や部屋の使い方などを工夫するなど、子どもたちの主体性・自主性につながる取り組みを行っている。掲示物の取捨選択を行い、見てもらいたいものに焦点を当てて、保護者にアピールするよう努めている。これらの取り組みを中長期計画の中に位置付け、具体的な取り組み内容の検討、目標の設定、達成状況の確認などがしやすい指標の提示などを職員全員の協議に基づいて行い、達成状況を職員間で共有して次の計画につなげることで、やる気や働きがいの更なる向上に活かされたい。

○異年齢での保育を指導計画の面からつなげ、更なる保育活動の広がり期待したい
 異年齢での交流・保育を園目標に掲げ、保育活動の中で自然に異年齢でのふれあいができるように取り組んでいる。お店屋さんごっこでは1歳児と4歳児、0歳児と3歳児、2歳児と5歳児が異年齢で活動に取り組み、普段はない組み合わせで年齢間の違いを感じつつ、あこがれや労わりの心、みんなとの協調性や全体で取り組み達成感などの育ちにつなげている。月間の保育指導計画を各クラス間で共有し、つなげられるところや協力・連携できる部分などを考え、更なる保育活動の広がりに活かされることも期待したい。現在、取り組んでいる保育環境の整備・変更などが活かされることで子どもたちの楽しい思い出に残る保育が期待できる。

⑤第三者評価結果に対する事業者のコメント

今年度も、第三者評価を受ける事で、振り返りと課題にたくさん気付くことができました。まず、保育環境の工夫と改善は、職員と相談しながら進めてきました。引き続き、子どもたちの安全・安心のために、そして、自主的に遊びを展開し継続できるよう、年齢に合った環境作りを、次年度も進めてまいります。また、保護者への周知方法の工夫、分かりやすい発信方法やしっかり言葉で伝える工夫を考えていきたいと思えます。そして、保育の質の向上は、子どもたちの豊かな成長のために、精一杯の保育を職員一同行ってまいります。

受審に関して、評価の中での的確なアドバイスをいただきました評価機関の皆様、ご多用中、利用調査のご協力いただきました保護者の皆様に心より感謝申し上げます。

⑥各評価項目にかかる第三者評価結果

別紙「評価細目の第三者評価結果」のとおり